

脳神経外科

Neurosurgery



脳神経外科診療部長 はしば やすひろ 橋場 康弘

当院は、桐生・みどり地区で脳外科の専門的治療が行える唯一の病院で、現在3名の常勤脳神経外科専門医で診療を行っています。

脳神経外科で扱うのは、①脳血管障害：脳出血、くも膜下出血、急性期脳梗塞^{けいどうみやくきょうさく}、頸動脈狭窄、もやもや病など、②脳腫瘍：良性脳腫瘍（髄膜腫^{ずいまくしゅ}、神経鞘腫^{しんけいしやうしゅ}、下垂体腺腫など）、悪性脳腫瘍（グリオーマ、転移性脳腫瘍など）、③頭部外傷（脳挫傷^{のうざしょう}、急性硬膜下(外)血腫^{きゅうせいどうまくかがいけっしゅ}、頭蓋骨骨折^{ずがいこつこっせつ}、慢性硬膜下血腫など）、④機能的疾患（正常圧水頭症、三叉神経痛、顔面けいれん、てんかんなど）、⑤その他（感染性疾患、小児疾患など）と多岐にわたっています。

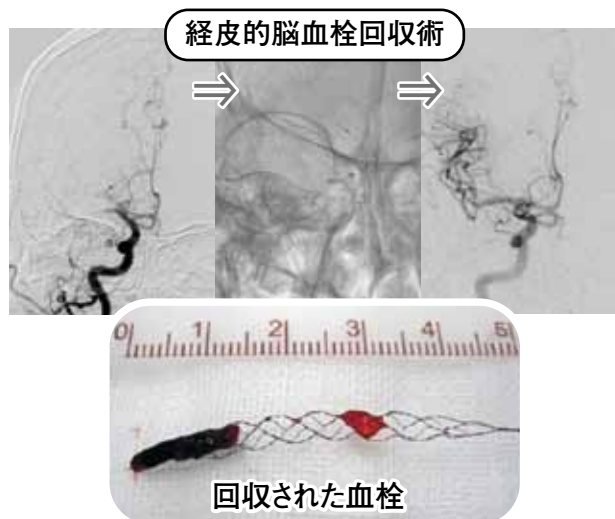
我々のモットーは、地域の患者さんはできるだけ地域で診療し、患者さんやご家族に満足してもらえる治療を提供し、最終的に自宅に戻れるようにすることです。そのために、最新の技術を身に付け、幅広い分野の治療を行えるように研鑽努力しております。

そんな中で脳外科分野で最近のトピックスとなるのは、何といても脳血管内治療です。カテーテルを用いて切らずに治す方法で、脳動脈瘤^{のうどうみやくりゅう}に対するコイル塞栓術^{そくせんじゆつ}、頸動脈狭窄症に対するステント留置術^{こつまくどうじょうみやくろう}、硬膜動静脈瘻や脳動静脈奇形に対する塞栓術、脳腫瘍の栄養血管塞栓術など年々件数も増加しております。当院では群馬県の脳血管内治療の第一人者である、前橋老年病研究所附属病院：内藤功医師と連携して治療を行っています。また、通常の開頭術でもナビゲーションシステムや術中神経筋電図モニタリング、蛍光診断などを積極的に取り入れ、安全性を高める努力をしております。

具体的な我々の取り組みをいくつか紹介します。

超急性期脳梗塞に対する脳血栓回収術

近年脳梗塞に対する治療は様変わりしており、特に発症8時間以内の脳主幹動脈閉塞に対するカテーテルによる血栓回収術が広く行われるようになりました。これはステント型や吸引型のカテーテルにより血管に閉塞した血栓を直接取り除く治療です。治療により、症状を軽減させたり消失させたりすることもできるようになっています。当院でも24時間体制で治療を受け入れております。脳梗塞は時間とともに進行完成していくため、大切なことは脳卒中を疑ったら様子を見ないですぐに専門的医療機関を受診することです。我々は救急隊とも勉強会を定期的に行っており、治療の適応となる患者さんを一人でも多く受け入れる体制を整えています。

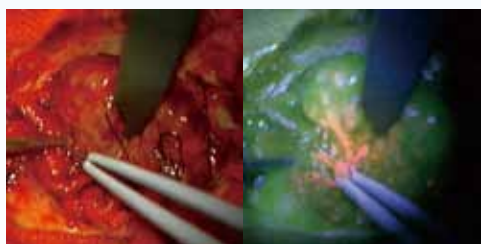


術中蛍光診断と術中ナビゲーション

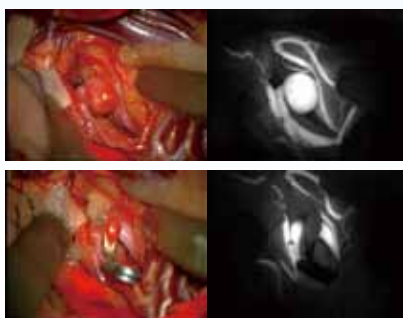
当院の手術用顕微鏡（カールツァイス・ペンテロ）には蛍光診断装置が組み込まれており、脳動脈瘤や悪性脳腫瘍の手術の際に利用しています。具体的には脳動脈瘤の閉鎖が十分か、周囲の血管の流れが良いかなど、術中にその場で確認することができ修正することができます。また、脳腫瘍では正常脳との境界が不明瞭な部分を蛍光診断で判別することができ、安全性と確実性を高めることができます。術中ナビゲーションシステム（メドトロニック・S7）も活躍しており、リアルタイムに操作している部分の位置情報が画像上に映すことができるため、よりの確な腫瘍摘出ができ安全性の向上がはかれます。



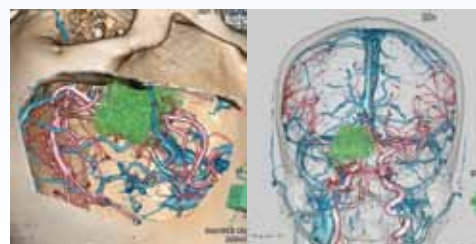
術中ナビゲーションシステム



5-ALAによる脳腫瘍術中蛍光診断



ICGによる脳動脈瘤クリッピング術中蛍光診断



3次元CTによる術前シュミレーション

現代の高度な脳外科治療は、もちろん脳外科医だけで成り立つものではありません。看護師による日々のケアや精神的サポート、放射線診療部による三次元画像や高精細画像による綿密な術前検討、最新の放射線治療機器による放射線治療、臨床検査部による術中神経機能モニタリング、臨床工学部によるナビゲーション、リハビリテーション部での回復期リハビリテーション、歯科口腔外科による口腔ケア、地域医療連携室による転院や各種行政サービスとの橋渡しなど、多職種と連携してより良い治療ができるように一丸となって頑張っています。

我々は、地域の中核病院脳神経外科として、高度な医療を地元で完結できることを目指し、今後も皆様のお役に立てるように精進して参りたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

第5回

災害訓練実施

平成30年11月3日(土)に太田断層での地震発生を想定し、BCP(事業継続計画)に基づき、災害拠点病院としてトリアージによる緊急度・重症度を判定、重症・中等症患者を中心に多数の傷病者を受け入れる訓練を行いました。

当院は、万が一災害が発生した際には入院患者さん・職員の安全を確保し、災害時の備品・食料・水を備蓄し、ライフライン復旧までの医療を継続できるよう備えております。

BCP(事業継続計画)とは

BCP (business continuity plan) とは、災害など不測の事態により被害を受けた時でも、事業を継続していく、あるいは中断しても早期復旧を図るために、事前に対応策を準備しておく計画です。

